

「不確実性の時代における本会の持続可能性」

ものづくり大学 名誉教授
博士（工学） 近藤 照夫

2004 年 5 月から 12 年間にわたり、本会の会長を務められた池田甫氏が 2016 年に逝去されたのを受けて、2017 年 6 月に開催された本会定時総会において筆者が理事会長として推挙されて、すでに 8 年間が経過している。この 8 年間を振り返ると、2019 年 11 月に中華人民共和国武漢市に端を発した新型コロナウイルス感染症 COVID-19 が同年末には世界各国へと拡大して、それ以降は約 3 年間にわたる「世界的な大流行（パンデミック）」に見舞われた。日本国内においても 2020 年 2 月からは感染が拡大して同年 4 月 7 日には第 1 回目の「緊急事態宣言」が発出されて以来、複数回にわたる「緊急事態宣言」の下で日常生活や社会経済活動が大きく制約された。しかし、2023 年 5 月 8 日からは日本の感染症法における分類が 2 類から 5 類に変更されて、政府による一律の規制は廃止されて日常生活や社会経済活動は著しく復活して来た。

本研究会の活動もコロナ禍による大きな制約を受けて、2020 年度定時総会はメール審議を余儀なくされて、本会最大事業である「常温金属溶射管理技士」の資格制度も 2020 年度と 2021 年度の 2 年間は新規資格認定を断念した。2022 年度にはワクチン接種推進等の政策によって感染症の拡大が落ち着き始めて、国家規制が緩和されて感染防止対策を講じたうえで本会の技術セミナーも再開した。その際には、会員企業をはじめ本会の関係者および常温金属溶射に関連が深い方々にご理解をいただき、コロナ禍前の受講者と同程度の参加をいただいたことに謝意を表したい。コロナ禍の間は本会における他の事業活動も大きな制約を受けたが、2021 年 3 月には「Zoom ミーティングシステム」を導入して、各種会議および定時総会をリモート開催して、本会の事業活動を復活させた。特に、技術委員会では 2021 年 3 月以降現在に至るまで委員会のリモート開催を継続しており、大きな成果が得られている。

本会の創設時に規定された「常温金属溶射管理技士」資格制度の規程を 2024 年度には大改正するとともに、同年 7 月には技術セミナーのテキストとなる「常温金属溶射設計・施工・補修マニュアル」を第 7 版として改訂発行した。本改訂においては、時代の変化に合わせて保全（点検・調査・補修）を主対象として初版以来の目次構成を一変して、設計や施工の技術標準を明確化した。新たに、「第 5 章 新しい技術の潮流」として、2030 年に向けて世界各国で推進されている国際目標である「SDGs（持続可能な開発目標）の概要」を取上げて、本会技術委員会による成果である「常温金属溶射技術における意欲目標と行動目標」も紹介している。

技術セミナー再開の 2022 年度には受講者が増加したが、2023 年度は旧資格制度に基づ

く更新期間（3 年）との関係から受講者の減少傾向を示した。しかし、2025 年度には 2019 年度以来の 100 名を超える受講をいただき、新制度およびマニュアル第七版に対するご理解を得られていると考えている。

また、世界情勢に目を転じると、米国では 2025 年 1 月に第 47 代大統領に返り咲いたドナルド・ジョン・トランプは、就任直後に地球温暖化対策の国際的な枠組み『パリ協定』から離脱する大統領令に署名したことにより、温暖化防止に対する国際的な取組みの足並みが乱れているようである。さらに、厳しい関税政策を打ち出して世界経済への影響が強く懸念される中で、2026 年 2 月 26 日には米国とイスラエルによるイランに対する大規模な軍事攻撃が開始されて、現在も中東地域および世界の経済に大きな影響を与えている。特に、ペルシャ湾とオマーン湾の間にあるエネルギー輸送の要衝であるホルムズ海峡が封鎖されて、世界の多くの国々において燃料費の高騰や石油化学製品の原料となるナフサの不足など、大きな打撃を与えている現状である。米国とイラン両国による戦争終結に向けた合意に対する動きは停滞しており、連日猫の目のように変化するトランプ大統領による SNS 投稿によって世界が一喜一憂して状況である。このような現状において、2050 年を目標年とするカーボンニュートラルに対する活動も不明確な状況になっている。

一方で、生成 AI を含めた DX のめざましい発展に加えて、極端な気象変化に対する地球温暖化（沸騰化）防止を主体象とする GX は不確実ながらも進められており、先が見えない大きな変革の時代を歩んでいることは明らかである。

本講演では、上述したような不確実な現状の中で本会が推進しなければならない DX と GX に関して、本会の理事会を運営していく立場として以下のようなお話をしたいと考えている。

- (1) 中東情勢による世界への影響
- (2) 我が国建設分野の現状と動向（建設投資および RX の推進）
- (3) 常温金属溶射技術における SDGs の進捗と新たな行動目標
- (4) 本会における DX と GX 推進の方向性

本講演ではスライドを用いて、上記のような内容に対して筆者の私的な考え方を含めて述べさせていただき、聴講される皆様からのご意見やご叱責を賜れば、筆者としては幸甚である。